

司 会 松 永 雅 範 (長崎県西海町教育委員会社会教育主事)  
芳 野 三津子 (佐賀県東松浦郡相知町立相知中学校教諭)

1. 「もちがせ流しびなマラニック大会」を核とした  
生涯学習の町づくり 14:15~14:40

中 尾 智 則《鳥取県》用瀬町教育委員会社会教育主事

今年で9回目を迎えるマラニック(マラソン+ピクニック)大会。

走ってもよし、歩いてもよしという気軽さと、健康相談・栄養講座、山菜弁当等の相乗効果で、1500人(人口は4700人)を超える参加となった。大会運営にあたり、各課の連携、ボランティアの協力など「連携のとれた町づくり」の推進を目指している。

2. 土佐絵金歌舞伎傳承会の起こりとねらい 14:40~15:05

横 矢 佐 代《高知県》土佐絵金歌舞伎傳承会事務局長

赤岡町は藩政時代に香南の商都として栄えたため、幕末の絵師広瀬金蔵(絵金はこの略称)の芝居絵が多く保存されている。この屏風絵に描かれている題材を取り上げ、住民が演じることによって、かつての生活文化を掘り起こし傳承する。それと共に、新しい文化創造の刺激剤として「文化の香り高いまち」づくりをねらっている。

ティー・ブレイク 15:05~15:40

3. 「遊学の郷加茂」の生涯スポーツの展開  
~国際チャレンジデーへの町民参加~ 15:40~16:05

吾 郷 和 宏《島根県》加茂町教育委員会社会教育主事

人口7千人弱の加茂町は、生涯スポーツの振興に力を入れている。

人口規模がほぼ同じ市町村間で、一定時間内に運動に参加した住民の参加率を競う「国際チャレンジデー」のイベントには、1993年に日本で初めて参加した。昨年は町民にも定着し、7割以上の参加を得ている。国際的な臨場感の中で遊び心も盛り込み楽しんでいる。

4. 「さざんか塾」バンブーオーケストラの企画と運営  
~地元企業との協力による地域文化づくり~ 16:05~16:30

多 良 淳 二《佐賀県》さざんか塾副塾長

地域に根付いた伝統芸能がなかったため、自分たちの手で地元に着したものを作ろうと企画。竹材を使った手作り楽器の演奏発表を行ったが、地元企業の佐賀銀行との協力により成功を収めた。今年は、焔博サテライト会場での発表を目標に新メンバーを結成、楽器作りから取り組んでいるが、継続させることが課題である。

5. 総 括 討 論 16:30~17:00